

科目名	現代社会		履修学年	第1学年	
			履修形態	必修	
			履修単位	2単位	
使用教科書 (出版社)	高等学校 新現代社会 (帝国書院)				
使用教材 (出版社)	高等学校 新現代社会ノート (帝国書院)				
学習の目標					
<p>人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>					
教科担当者から					
<p>「公民」という教科の魅力は、「いま、この社会でいったい何が起きているのか」を知ることができるころだと思います。この未完成で発展途上の人間社会を見渡したときに、私たちや世界の人々を苦しめるたくさん問題はいったいなぜ起こってしまったのか。私たちは、この世界と私たちの暮らしをほんの少しでも良いものにするために、何をしていくべきなのか。現代社会はそれらの問題を考える出発点となる科目です。ここから、高校の地歴公民科のそれぞれの科目に進み、世界を見渡す力を養ってください。</p>					
評価の観点・方法・割合					
観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
規準	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、社会的現象を総合的に考えようとする態度及びよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	社会的現象の本質や人間としての在り方生き方について、広い視野に立って多角的・多面的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、効果的に活用している。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関わる事柄についてを理解し、その知識を身に付けている。	
方法	※ ◎は観点の中でより重視するところです。				
観察	◎				
ノート	◎	○			
課題	○	◎	◎	○	
小テスト		○	○	◎	
考査		○	○	◎	
割合	10%	20%	20%	50%	
評価の基準 ※ 満点を100点としたとき					
5	4	3	2	1	
100点～85点程度	84点～65点程度	64点～45点程度	44点～30点程度	30点未満	

学習内容								
学期	月	単元名／学習内容	学習のねらい	評価の観点				時間
				関	思	資	知	
前期	4.5	第Ⅰ部 現代社会の諸課題とそのとらえ方	<p>私たちが生きる現代社会では様々な課題があり、複数の主張が存在することを学習する。現代社会が抱える課題は、条件・主張・背景などが複雑に絡み合っており、一方的なものの考え方では解決できない。自己の主張だけでなく、他者の主張を理解した上で、どのように対応するか考察するとともに、言語化できるようにする。</p>	◎	○	○	○	10
	5.6	第Ⅱ部 現代社会のしくみと私たちの生き方 第Ⅰ章 現代の社会生活と自己実現 第Ⅰ節 青年期の意義 (含：前期中間考査)	<p>青年期における発達段階の特徴を理解し、青年期の課題への適切な対応について考察する。また、人間の生き方を幸福や正義の実現という視点から捉え、よく生きるということについて考察する。さらに、宗教と人々の生活との関わりを理解し、異なる価値観と相互理解を図ることの重要性を考察するとともに、言語化できるようにする。</p>	○	◎	◎	○	12
		6.7	第Ⅱ節 よく生きるとは		○	◎	◎	○
	7.8 9	第Ⅱ章 現代の民主政治と民主社会の倫理 第Ⅰ節 民主政治の原理と日本国憲法 第Ⅱ節 日本の政治機構と政治参加 (含：前期期末考査)	<p>基本的人権の保障と法の支配、国民主権と議会制民主主義、平和主義と我が国の安全について理解を深め、日本国憲法の基本的原則について国民生活との関わりから認識を深めるとともに、世論形成と政治参加の意義について理解し、民主政治における個人と国家について考える。また、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等、法と規範などについて考察する。</p>	○	○	○	◎	18
後期	10 10.11	第Ⅲ章 現代の経済と国民の福祉 第Ⅰ節 市場経済のしくみ 第Ⅱ節 豊かな社会の実現をみざして (含：後期中間考査)	<p>現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害の防止と環境保全について理解するとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任について考える。</p>	○	○	○	◎	15
	12.1 2.3	第Ⅳ章 現代の国際社会と日本の役割 第Ⅰ節 国際経済の動向と貧困の解消 第Ⅱ節 国際政治の動向と平和の追求 (含：後期期末考査)	<p>世界の主な国の経済や政治の動向に触れながら、資本主義経済と社会主義経済の変容、貿易の拡大と経済摩擦、南北問題、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛について理解し、国際平和や国際協力の必要性および国際組織の役割について認識するとともに、国際社会における日本の果たすべき役割および日本人の生き方について考え、言語化できるようにする。</p>	◎	○	○	◎	15
					◎	○	○	◎
								70